

秋の叙勲

瑞宝単光章

令和3年秋の叙勲で、本町の瀬川由雄さん(荒川・73)、千葉勝見さん(織笠・78)、芳賀孝さん(豊間根・70)の3人が消防功勞として瑞宝単光章を受章。長年にわたる消防活動での功績に、光が当てられました。

消防功勞

地域、家族、仲間と「火消し」の使命一心に



よしお
瀬川 由雄さん
(荒川・73歳)

「消防団だった父親の半纏姿がかっこよくてね」と入団当時を振り返る瀬川さん。昭和42年に町消防団第13分団に入団、平成12年から退団される平成19年まで本部副分団長を務めました。「火災予防は家庭から」を信念に状況に応じた防火広報活動や、消防水利の必要性を訴え、防火水槽の設置に向けて土地地権者へ説明にあたるなどの消防活動に尽力されました。今回の受章に際し、瀬川さんは「地元の皆さんや家族の協力があってこそこの荣誉です。感謝しかありません」と話し、40年間の活動を思い起こしていました。



かつみ
千葉 勝見さん
(織笠・78歳)

「“町民の生命・財産を守る”という使命は、団員の命あってこそです」と力強く語る千葉さんは、昭和46年に町消防団第5分団に入団。平成9年に同団副分団長、平成12年に同分団長に就任し、平成18年に退団されるまで約35年間、迅速な消火活動と団員たちの訓練に力を注いできました。冬期の火災現場では、被災者のために地域住民から毛布を借用して回るなどの気遣いの姿勢が団員の良き手本となりました。千葉さんは「訓練が自分の命を守ります。これからも頑張りたいです」と現役の皆さんにエールを送ります。



たかし
芳賀 孝さん
(豊間根・70歳)

受章に照れつつも「消防操法に魅せられた43年間でした。この知識と体に染みついた動きは胸を張れます」と語る芳賀さん。昭和49年に町消防団第11分団に入団し、平成20年に本部分団長、平成26年に副団長に就任し、平成29年に退団されるまで本町の消防活動に尽くされました。自ら消防学校に通うなど、たゆまぬ研究心で培われた知識と経験は芳賀さんの熱意ある指導によって後輩たちに受け継がれています。「訓練を重ねる団員の姿を見て、皆さんの防災意識が高まると嬉しいです」と今でも火消し魂は変わりません。



健康子ども課
みちほ
佐々木 美智穂 助産師

本年度から自身を中心となつて取り組む「山田町産後ケア」の普及活動も受賞理由の一つ。産後の不安や悩みを持つ母親をサポートする事業で、既に対象者の約7割が利用し、県内市町村の事業モデルにもなっています。「特に立派な施設ではなくても、お母さんたちが安心して相談できる居場所づくりが必要です」と、佐々木助産師は母子ケアの大切さを強調します。

厚生労働大臣表彰 本町の佐々木助産師が受賞

11月4日、厚生労働省主催の「健やか親子21全国大会」で、本町の佐々木美智穂助産師が厚生労働大臣表彰を受賞しました。産後うつと児童虐待予防の普及に貢献したことや、震災前後の産後うつの発症率と要因などの検討結果をまとめた共著論文が高く評価されていることなどが認められたものです。